

B-23 防しわ性からみた非ホルマリン、低ホルマリン系樹脂加工布について
日本女大家政 日増子富美 青木千賀子 中西茂子

目的 我々は、各種樹脂加工布の防しわ性について研究を行なってきたが、非ホルマリン、低ホルマリン系樹脂剤の開発の伴い、今回は、それらを用いた樹脂加工布に対する防しわ性および防しわ率の面からみた耐洗濯性と耐薬品性（特に漂白剤）の検体を行ない、従来の樹脂加工布のそれとの比較検討することを試みた。

方法 JIS L-0885の方法に従って調製し、従来用いてきた調製樹脂加工布（第27回本誌会誌表）及び非および低ホルマリン調製樹脂加工布と各種市販樹脂加工布をくり返し洗濯し（1〜25回）、洗濯回数に伴う防しわ率の変化を測定した。また、塩素系および酸素系の酸化剤の処理における有効塩素または酸素の濃度、処理回数、処理時間の影響もあわせて観察し、従来の樹脂加工布と非・低ホルマリン樹脂加工布とを比較検討した。一方、市販布においては、上記の耐性について規制前後のものとのそれだけの比較を試みた。

結果 非および低ホルマリン系の防しわ率の向上率は、従来のものと同様、概して、レーヨン布よりも綿布の方が高く、従来のメラミン系のそれよりも高いが、グリオキザール系のそれよりも低い。この傾向は、耐洗濯性、耐薬品性の場合についても同様であった。耐洗濯性に関しては、1回洗濯を行なった後の防しわ率は、回数を重ねた後もあまり変化を示さないのが特徴である。耐薬品性については、綿布に比べレーヨン布における防しわ率の減少が著しいのが目立った。IRスペクトル法で同定した市販樹脂加工布については、繊維の種類、加工剤により異なった様相を示したが、織物自体の諸条件を考慮しても、ホルマリンの規制前よりも後の方が、低い傾向を示した。